

2006年 1月 26日

マンションを取り巻く環境は強含みで推移  
住宅購入意欲は高水準を維持  
～長谷工アーベスト「顧客マインド調査」(2006年1月)より～

株式会社長谷工アーベスト(本社:東京都港区、社長:安永雄一郎)では、首都圏で受託販売している分譲マンションモデルルームの来訪者を対象として、「顧客マインド調査」を行っておりますが、このほど行った調査(1月6日～11日)では、景況感・金利先高感・マンション価格先高感・地価先高感がいずれも前回調査時(2005年9月)より大きく上昇していることが分かりました。

**【顧客のマインドは高水準を維持 各種先高感がより一層強まる】**

- 『景気動向』については「次第によくなる」が前回調査時より15P増(44% 59%)、「横ばいだと思う」が14P減(42% 28%)となり、景況感が大きく上昇しています。回答理由では、株価の続伸、企業業績の上昇、設備投資の増大の他、ボーナスの増加、消費意欲の向上など、実感を伴う声も聞かれました。 - グラフ
- 『金利動向』については「徐々に上昇する」が13P増(61% 74%)、「横ばいだと思う」が14P減(31% 17%)となり、金利先高感は一層高まっています。量的緩和解除が予測されている中で、金利水準上昇を予測する声が主流となっています。 - グラフ
- 『マンション価格動向』については「徐々に上昇する」が16P増(27% 43%)、「下降すると思う」が9P減(21% 12%)となり、いずれも2002年調査開始以来の水準となりました。デフレの終焉により価格は底を打ったという回答の他、「耐震強度偽装問題」を契機とした品質強化が価格を押し上げるのでは、という声も多数見られました。 - グラフ
- 『地価動向』についても「徐々に上昇する」という回答が18P増(36% 54%)、「下降すると思う」は8P減(13% 5%)となりました。景気回復等により徐々に地価が上昇するという見方が主流ですが、都心部・再開発エリアに限定されるという意見が大半でした。 - グラフ
- 「現在住宅の購入を検討していますか」という質問に対しては、「検討中」と答えた人は3P増(55% 58%)とやや増加、「一時見合わせ」は3P減(40% 37%)でした。 - グラフ

以上のように、前回調査時と比較すると各種先高感とは13～18P増と大幅に増加しており、住宅購入検討意欲も高水準を維持しています。

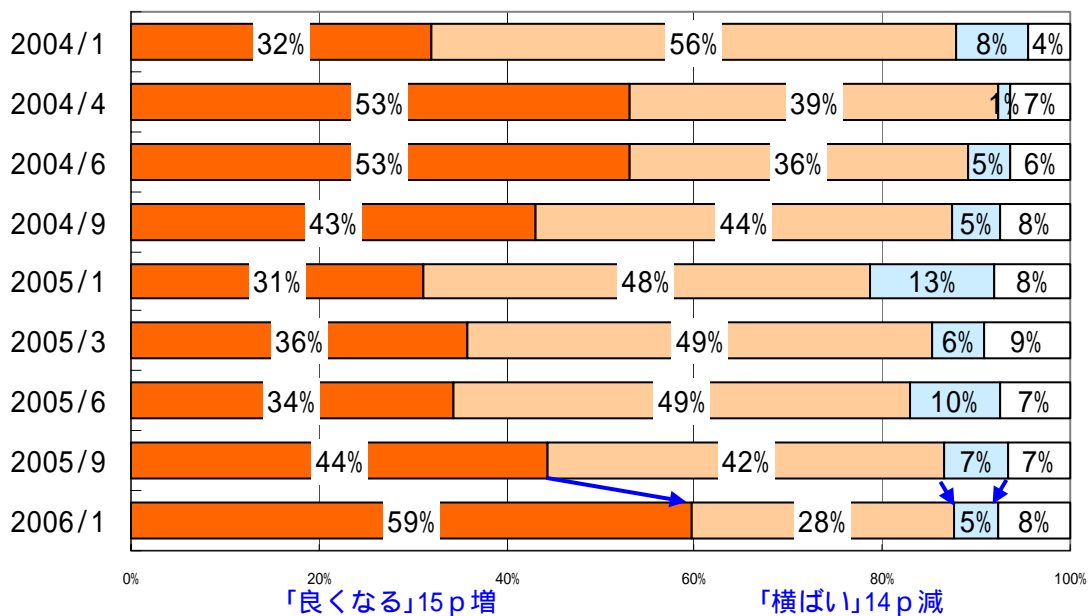
## 【長谷工アーベスト 顧客マインド調査】

### 【調査概要】

調査対象 2000年1月以降のモデルルーム来訪者  
 調査手法 インターネットアンケート  
 調査実施日 2006年1月6日アンケートメール配信、1月11日締切  
 有効回答件数 292件

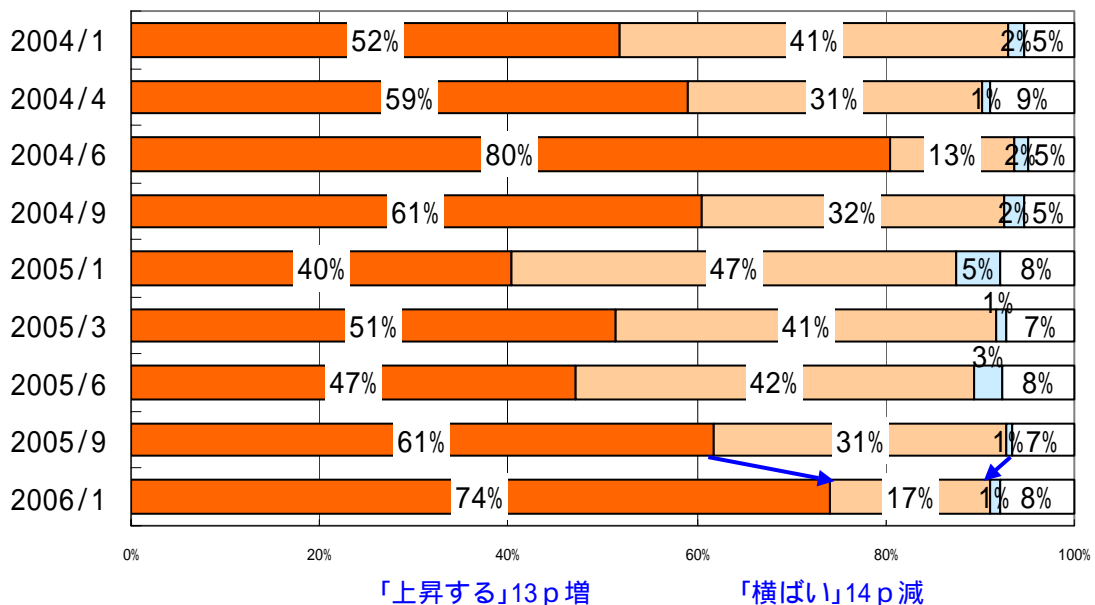
### 今後、『景気動向』はどうかと思いますか？（グラフ）

■次第に良くなる □横ばいだと思う □次第に悪くなると思う □分からない



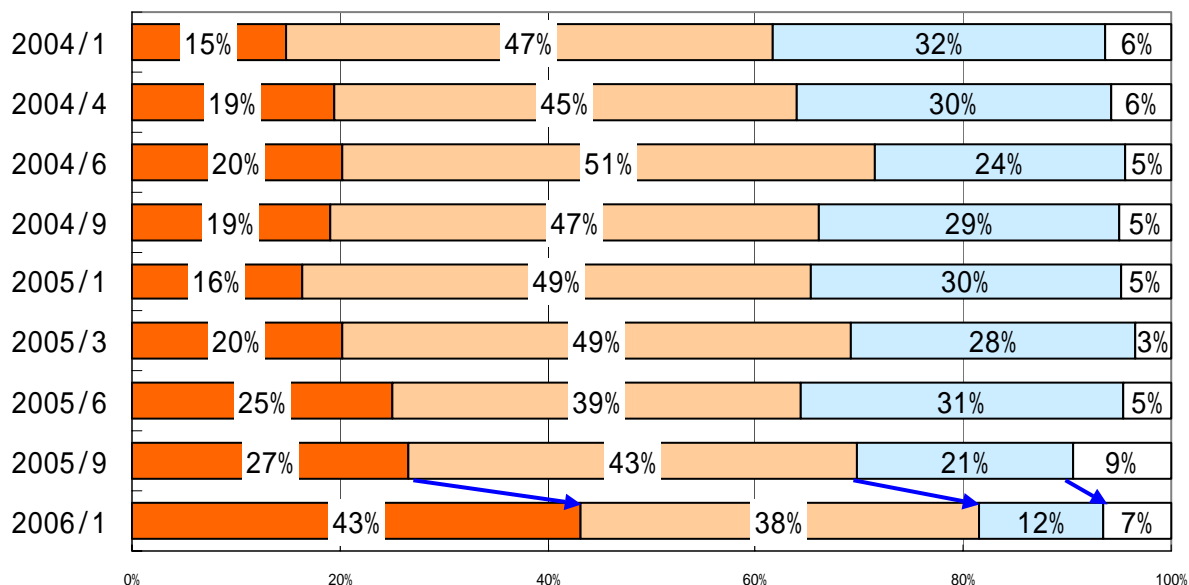
### 今後、『金利動向』はどうかと思いますか？（グラフ）

■徐々に上昇すると思う □横ばいだと思う □下降すると思う □分からない



今後、『マンションの価格』はどのように思いますか？（グラフ）

徐々に上昇すると思う
  横ばいだと思う
  下降すると思う
  分からない

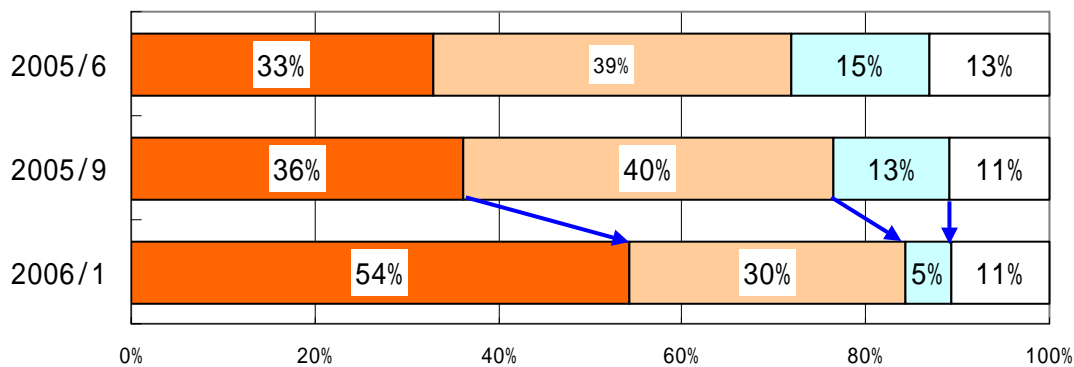


「上昇する」16p 増

「下降する」9p 減

今後、『地価動向』はどのように思いますか？（グラフ）

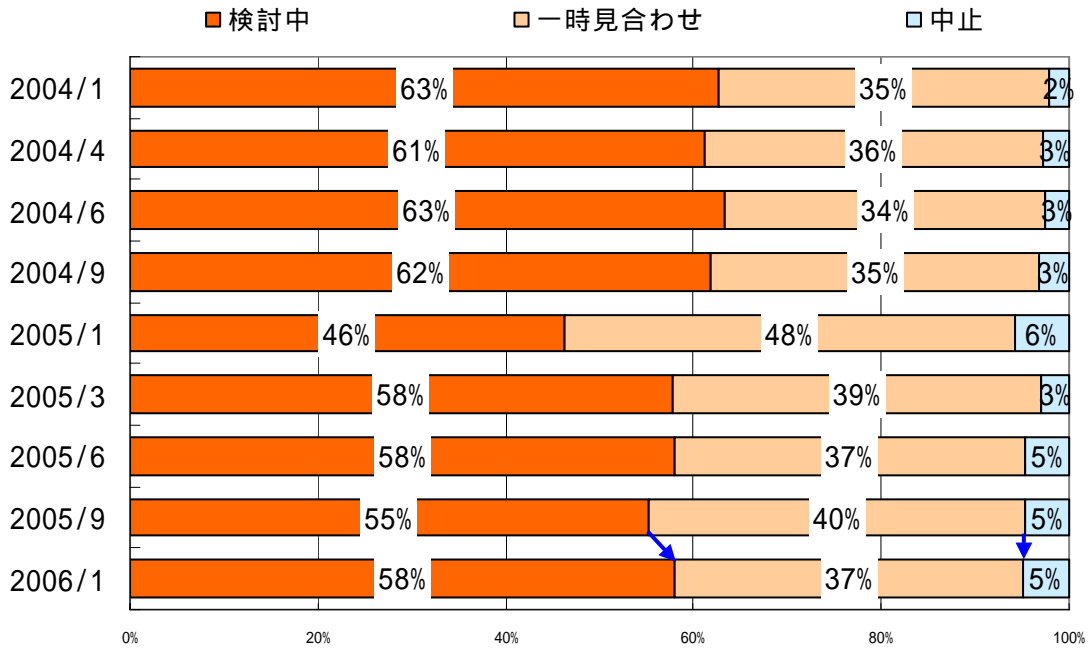
徐々に上昇すると思う
  横ばいだと思う
  下降すると思う
  分からない



「上昇する」18p 増

「下降する」8p 減

現在は、住宅の購入を検討していますか？（グラフ）



「検討中」3p 増